

「友松」の変遷

No.9 平成 22 年 (2010) 10 月



昭和 13 年 (1938 年) 12 月 25 日発行
第 23 号 A5 版 総ページ 156 ページ
縦書き 一段または二段組み

< 主な内容 > (数字はページ数)

- * 会長挨拶 学校長挨拶(6)
- * 恩師寄稿・会員寄稿(18)
- * 会員談話室(13) * 弔慰(13)
- * 会員集会(8) * 通告(2)
- * 各支部消息(37)* 会務会計報告(2)
- * 雑録(8) * 編集後記(1)

子どもの絵が表紙になったのは、23 号 1 冊だけである。「絵が好きでままごとの合間にゑがいて、無邪気な自分を表現している子供がいます。聞けば就学もしてゐないそうです。然も相当の芸術味を出していますので、拝借して表紙絵と致しました」と編集後記に書かれている。

接
摺

友松会長 水 島 藤 吉

聖戦はやくも一年有半。忠勇無比なる我が皇軍将士は、海に陸に空に壯烈果敢な戦闘をつゞけ連戦連勝次々に抗日の牙城をくずし、(中略) 今や歴大なる支那を如何ように処理するも我が日本の胸三寸にある。しかし乍ら之をもつて事變の終局と考ふるものありませば、今事變の重大意義をよく自覺せざるの徒輩にして、天下これ以上の危険はない。眞の戦はこれから！眞に偉大なる日本帝國は、今將に日支相提携して東亞の新平和體制を確立すべき劃期的建設段階に到達したのである。これからの戦は何か、「経済戦」であり、「外交戦」であり、「教育戦」である。これらの諸戦に絶大なる勝利を期する爲には、夫れ等の底流となる「思想戦」「精神戦」に必勝を期せねばならぬ。

この 23 号も、戦時下の発行で、内容的に当時の世相が反映されている。

「聖戦はやくも一年有半。忠勇無比なる我が皇軍将士は、海に陸に空に壯烈果敢な戦闘をつゞけ連戦連勝次々に抗日の牙城をくずし、(中略) 今や歴大なる支那を如何ように処理するも我が日本の胸三寸にある」という文で会長の挨拶が始まっている。

また、「この歴史的・一大転機に際し、国民教育の重任にある友松会員諸賢。この歴史的・民族的・大使命を自覚し、第一線にある皇軍将士の緊張にも優る心意気をもて、日々の教育に精励し、教育報国の一念に徹せられんことを望む」と書かれている。

